

教育学術における欧州統合と日本

— ボローニャ・プロセスとリスボン戦略を中心に —



Sorbonne, Paris

1. 高等教育・研究における欧州統合への歩み
2. ボローニャ・プロセス
3. リスボン戦略
4. 課題と日本への示唆

大場 淳
広島大学高等教育研究開発センター
oba@hiroshima-u.ac.jp

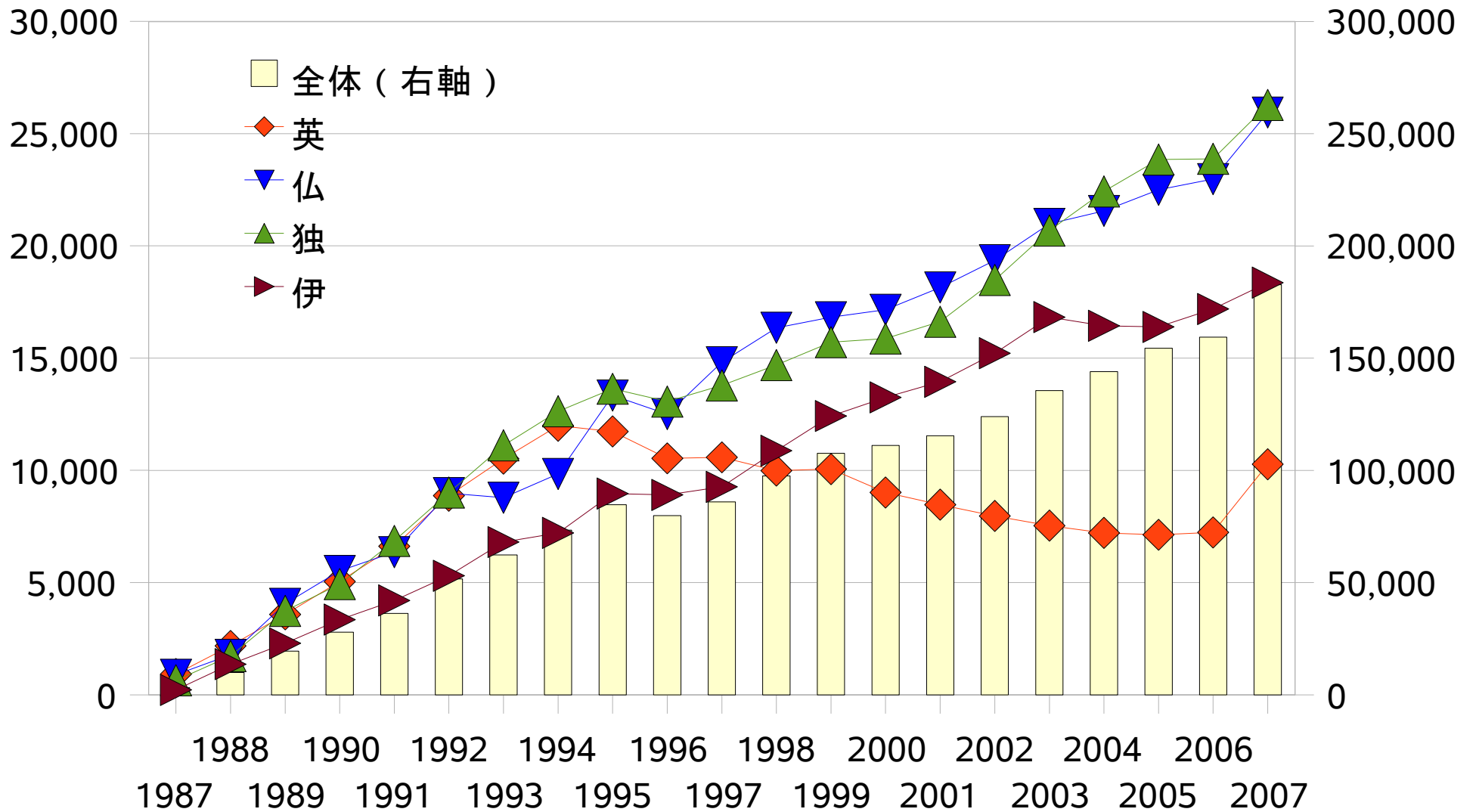
1. 高等教育・研究における欧州統合への歩み

- 中世大学～ボローニャ、パリ、・・・
 - 欧州各地から学生が参集
 - 国民団の存在
 - ✓ cf. ラシュドール(1966)、酒井(1979)

[ボローニャ]大学は各地から学生が集まってきたので、彼らのあいだに一種の同郷意識から出身地による集団ができた。これをナティオとよんだ。二つの学生大学団は国民団に分れていた。初期の規約ではアルプス以南組はローマ人、トスカーナ人、ロンバルディア人の三つの国民団に分れていた。これらの国民団はさらに「代議員選出団(consiliaria)」というような小さな地方的単位に細分化され、それぞれ一人か二人の代議員(councillor)を選出した。一四三二年その数は一七であった。アルプス以北組は一四三二年には一六となった。

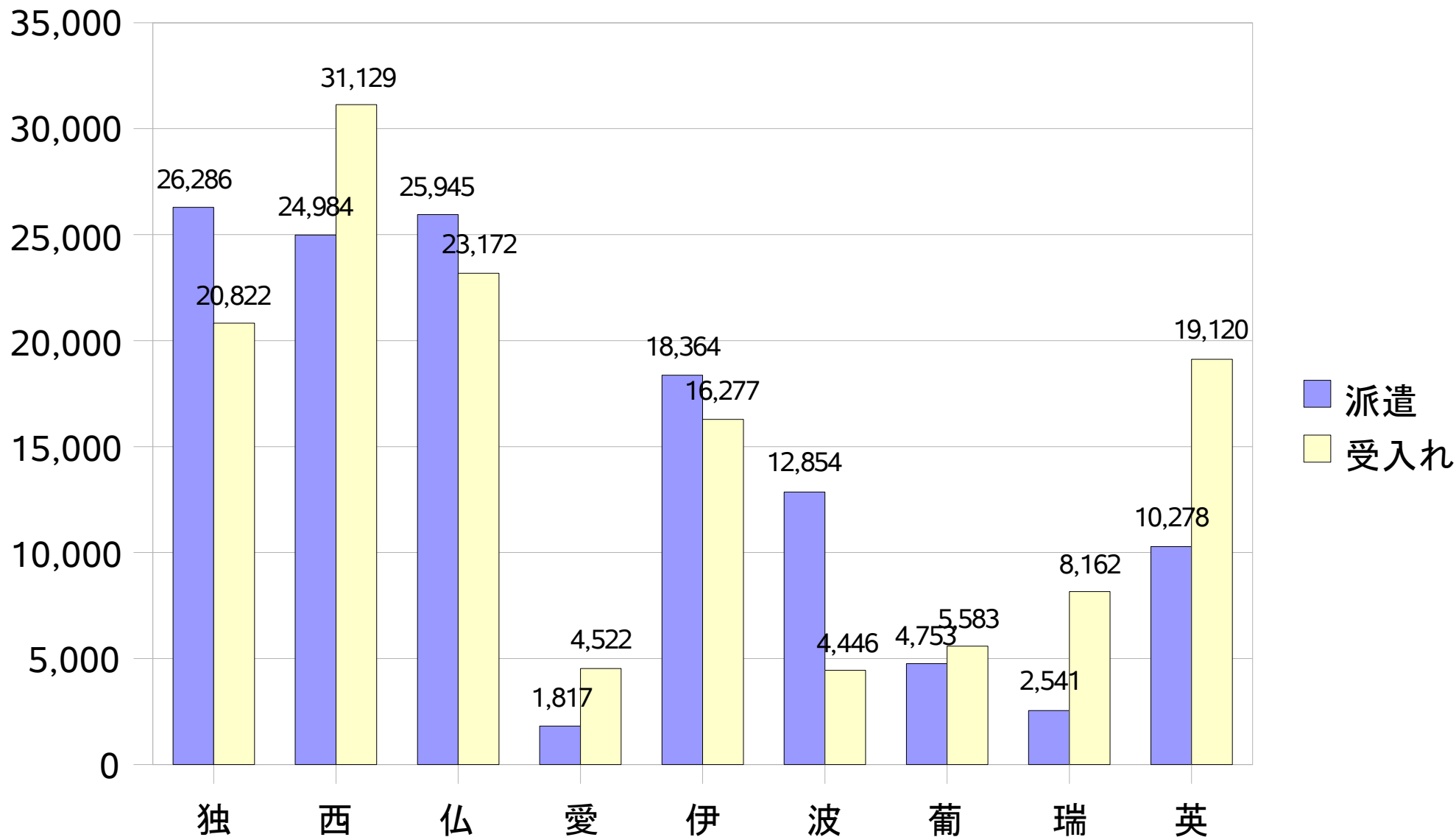
酒井(1979:30頁)

- 欧州共同体(連合)の交流事業
 - 1976年 共同学習計画
 - 1987年 エラスムス＝ソクラテス計画
 - ✓ 欧州内の2/3の学生がその利用者(タイヒラー, 2003)
 - ✓ 1984年、国内学修認証情報センター(NARIC)ネットワーク
 - × 1994年、ユネスコ等が推進するENICと統合、ENIC-NARICネットワークへ
 - ✓ 1988年、欧州単位互換制度(ECTS)
 - ✓ 1995年、ソクラテス計画の一部として繰り入れ
 - ✓ 2002年、エラスムス・ムンデウス
 - × 域外国との交流も対象に



エラスムス学生(出国者)数の推移

年度は開始年で表示



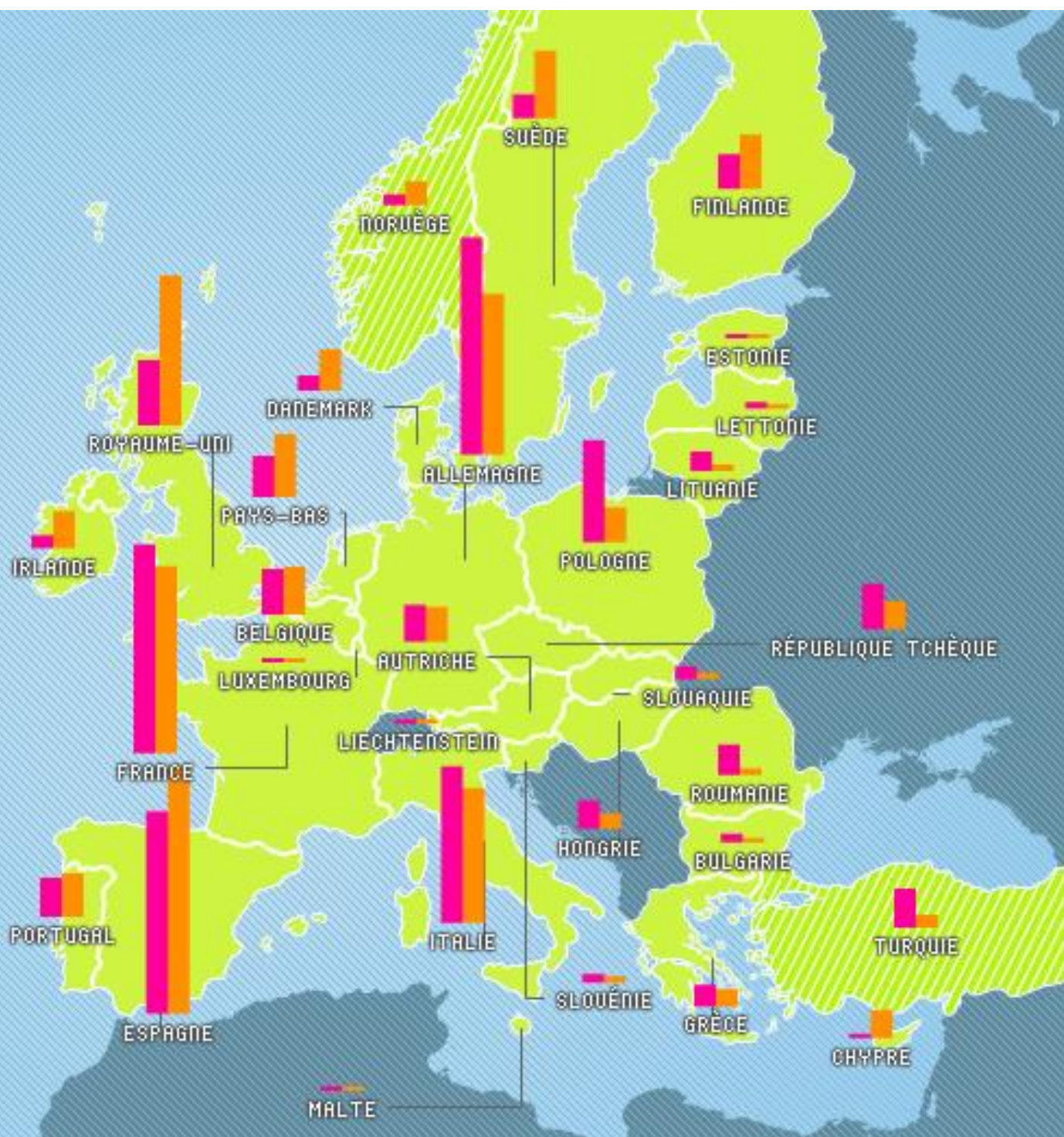
国別の派遣・受入れ数(2007-2008年度)

Mobilité des étudiants Erasmus

(Année universitaire 2006-2007)



Source : Erasmus student mobility 2006/2007: total number of students by home and host country - Commission européenne



派遣と受入れ(左が派遣、右が受入れ)(2006-2007年度)

- 欧州科学財団 (European Science Foundation)
 - 1974年、欧州諸国の研究振興機関等によって設置 (本部: ストラスブール)
 - 欧州内の共同研究を推進 (資金提供は各国の研究振興機関等)
- 研究技術開発枠組計画 (Framework programme)
 - 1983年設置の欧州共同体 (連合) の競争的資金プログラム
 - 1984年～ 第一次計画
 - 2007～2013年 第七次計画 (505億ユーロ)
(優先領域)
health; food, agriculture, fisheries and biotechnology; information and communication technologies; nanosciences, nanotechnologies, materials and new production technologies/energy; environment (including climate change); transport (including aeronautics); socio-economic sciences and the humanities; space; security

- 1988年、大学大憲章 (Magna Charta Universitatum) (於ボローニヤ)
 - 大学の基本的原則
 - ✓ 大学の自律性
 - ✓ 教育と研究の統合
 - ✓ 学問(教育・研究)の自由
 - 手段
 - ✓ 教育研究の自由を守るための適切な手段
 - ✓ 教員の募集と地位は、教育と研究の統合に基づく
 - ✓ 学生に対する自由と学習手段の保証
 - ✓ 大学間交流の推進、教員・学生の流動性拡大
- 1997年、欧州評議会・学位等の相互認証に関するリスボン協定 (Lisbon Convention)
 - 情報交換の促進、委員会の設置等

2. ボローニャ・プロセス

- 1998年、ソルボンヌ大臣会合・宣言（仏英独伊）
 - 学生の流動性向上
 - 各国高等教育制度の透明性確保（比較可能性）と高い競争力
 - ECTSや半期（セメスタ）制度の普及
 - 学士前課程（under-graduate）及び学士後課程（graduate）の2段階の学位構造の導入
 - 欧州高等教育圏の構築



- 1999年、ボローニャ大臣会合・宣言
 - 29か国の高等教育担当大臣等が参加
 - 大学大憲章、ソルボンヌ宣言への賛同
 - 大臣会合を基軸に欧州高等教育圏建設を推進
 - ✓ 学位附属書 (diploma supplement) による学位の透明性・比較可能性の確保
 - ✓ 高等教育の質評価についての協力推進 (比較可能な基準と手法の開発)
 - ✓ ボローニャ運営委員会 (Bologna Follow-up Group) の設置



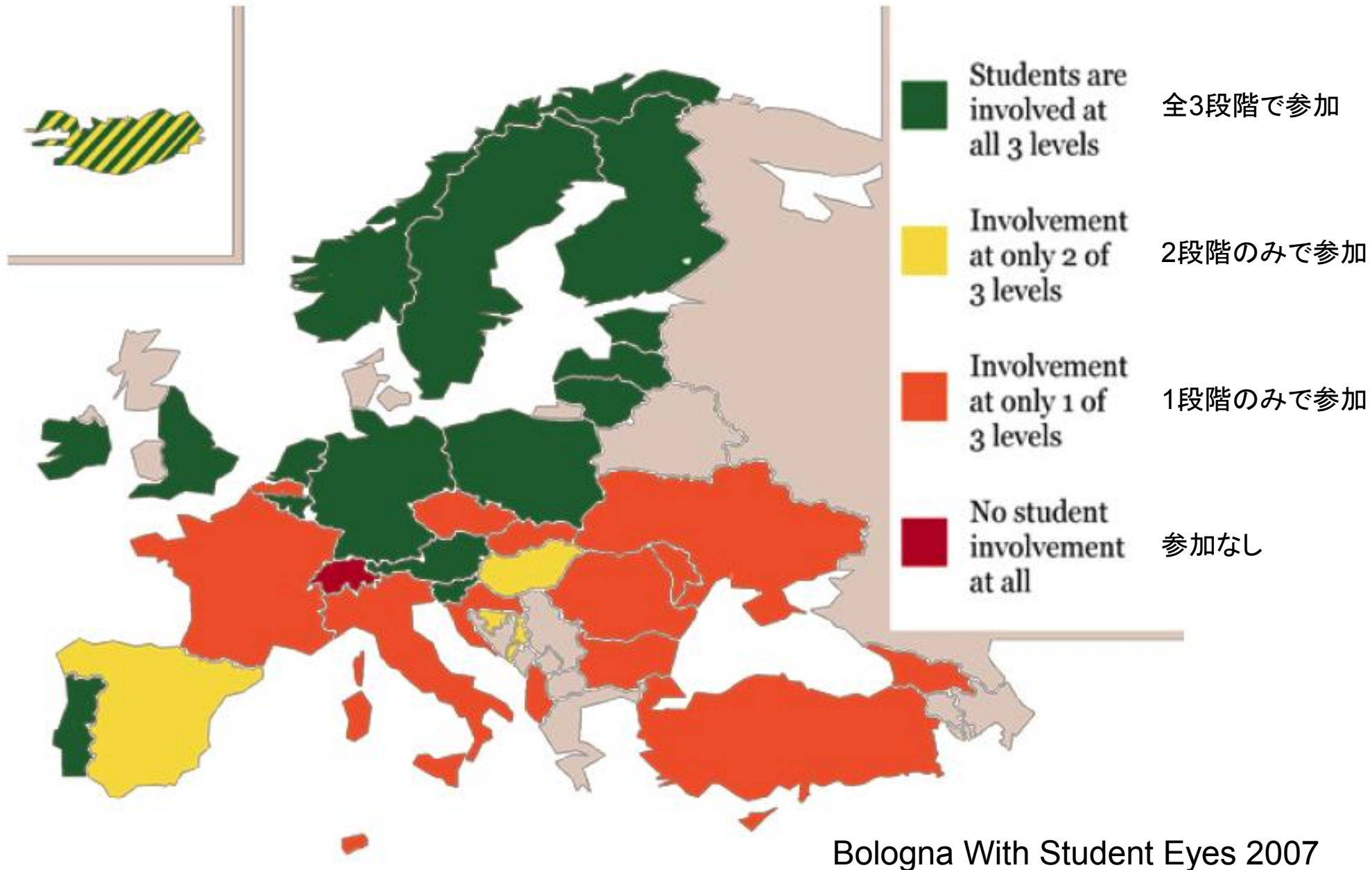
- 2001年、プラハ大臣会合
 - 公共財としての高等教育、公的責任(規制等)が強調
 - 運営活動(follow-up work)に欧州委員会が参加
 - 諮問メンバーの参加
 - ✓ 欧州大学協会(EUA)
 - ✓ 欧州高等教育機関協会(EURASHE)
 - ✓ 欧州学生団体連合(ESIB:現在の欧州学生連合(ESU))
 - ✓ 欧州評議会(Council of Europe)
 - コミュニケで機関・学生の参加が推奨
 - ✓ 「大学とその他の高等教育機関及び学生が、欧州高等教育圏の設立と形成における資格を有する活発で建設的な当事者として必要とされ、また、歓迎される」
 - ✓ 「学生は、大学とその他の高等教育機関の教育編成・内容に参加し影響を与えるべきである」

- 協力のための各種事業
 - 2003年6月、欧州大学協会(EUA)・グラーツ宣言
 - ✓ 改革の中心に位置付く大学
 - 2003年6月、オスロセミナー「高等教育統治への学生参加」(ノルウェー政府、ESIB等主催)
 - ✓ あらゆる段階の意思決定において学生の関与が拡大されるべきである
 - 欧州委員会の支援を受けるなどして各種研究事業が並行して推進
 - ✓ 欧州教育構造の同調(TUNING)(2000～2006)
 - ✓ 国境を越えた欧州評価事業(TEEP)(2002～2003)
 - ✓ 質に関する共同イニシアティブ(JQI)(2001～)
 - × 教育内容についてのダブリン記述書(2004)

- 2003年9月、ベルリン大臣会合
 - 2005年までに各国は質保証制度を整備
 - ENQA、EUA、EURASHE、ESIBを中心に、共通の規準・手法について検討
- 2005年、ENQA『欧州高等教育圏における質保証のための規準及び指針』(規準・指針書)＝ESG
 - 内部評価と外部(第三者)評価
 - ✓ 中心となるのは内部評価
 - 第三者評価機関の整備とその質保証
 - 利害関係者の評価への参加～特に学生

質保証における学生参加の状況

Fig.3: map student participation in QA



- 2005年、ベルゲン大臣会合
 - ESG(ENQA規準・指針書)を承認
 - 達成度報告書(stocktaking)
 - 諮問メンバーの追加
 - ✓ 欧州高等教育質保証協会(ENQA)
 - ✓ 教育インターナショナル—全欧機構
 - ✓ 欧州産業・雇用者連合団体(UNICE、現BUSINESSEUROPE)
- 2007年、ロンドン会合
 - 質保証機関の登録簿(register)
- 2009年、ベネルクス会合
- 2010年、欧州高等教育圏発足(予定)

3. リスボン戦略

- 2000年、欧州理事会(European Council)で採択
 - 2010年までに、欧州を「世界で最も競争力を有し活力ある知識基盤経済」とする
 - 研究投資の拡大…対GDP3%に
 - 欧州研究圏の創設
 - ①研究者の流動性促進
 - ②世界トップクラスの研究基盤確保
 - ③研究機関間ネットワーク構築
 - ④産学による“知”の連携
 - ⑤重点分野への投資
 - ⑥域外の国・地域との連携強化

- 大学はその目標を達成するための人材養成・研究開発の最も重要な手段

The Lisbon agenda calls for efforts from a wide range of players. These include the universities, which have a particularly important role to play. This is because of their twofold traditional vocation of research and teaching, their increasing role in the complex process of innovation, along with their other contributions to economic competitiveness and social cohesion, e.g. their role in the life of the community and in regional development.

CEC(2003)

- 開かれた政策協調手法（Open Method of Coordination）による教育・研究政策の推進（Gornitzka, 2007）
 - 産業との連携や知識労働者養成に向けた大学改革へ向けて非常に強い影響
 - 研究分野では、既存の活動の拡充・強化、ベンチマーキングや量的指標により各国政策を誘導
 - 教育分野—新しい領域—では、EUの活動を広げていく手段
 - ✓ 教育大臣会合、専門家会合、各種団体
 - ✓ 量的指標の整備（早期離学者の減少、理科・技術教育の推進、高校教育の普及、基礎的技能の習得、人的資源への投資）

- ボローニャ・プロセスとの関係
 - 欧州委員会がボローニャ・プロセスを活用
 - ボローニャ・プロセスとリスボン戦略は異なった枠組で始められたが、次第に前者は後者に吸収される形で収斂
 - ボローニャ・プロセスは次第に競争パラダイムへ

... there are signs that the European Commission is moving from a cooperation paradigm to a competition paradigm, which corresponds to the emergence of the more neoliberal development model that can sometimes be seen in European policies. The apparent convergence of the Bologna process with the Lisbon strategy has apparently reinforced this trend due to the stronger emphasis on the economic component of European policies.

Amaral (2007)

4. 課題と展望、日本との関係

- 教育・研究において学ぶべき点
 - 国を越えた協力の推進、更にEUの域外にも拡大
 - 大学の主導によって始まった協力
 - 関係者の参加
 - ✓ 高等教育機関団体、学生
 - ✓ 質保証機関
 - ✓ 教職員、企業
 - 教育内容についての相互理解、透明性確保のための多様な協力
 - ✓ ex. TUNING、ENIC-NARIC、ECTS、・・・

- 質保証
 - ✓ 「質」の内容を各国に委ねた分権的制度
 - ✓ ESGは手続を重視
 - ✓ 質保証機関の質保証
- 多様な研究協力
 - ✓ ESFモデル
- 少なくない課題や批判
 - 学生交流
 - ✓ まだまだ少ない流動性
 - ✓ 派遣・受入れの偏在
 - ✓ 英語プログラムの拡大と国のアイデンティティ
 - 政府主導のボローニャ・プロセスと現場における実践の乖離

- EUによる主導権と競争パラダイム
 - ✓ 教育・研究の商業主義化
 - ✓ 適さない学問領域(特に人文系)の取扱い
 - ✓ 標準化の圧力～失われる多様性
 - ✓ 資金の集中と階層化の動き
 - ✓ 大規模大学の出現
 - × 現場の意向を無視した統合の推進
- 質保証と評価
 - ✓ 不明瞭な目的と基準
 - ✓ 一人歩きする指標
 - ✓ 大学ランキングの弊害
- 機関中心、学生参加
 - ✓ 疎外される教員と学内対立
 - ✓ 難しい実質的な学生参加
 - ✓ 人気取りの教育内容と実践

- 東アジアで高等教育・研究の連携が可能か？
 - 欧州以上の多様性の存在
 - ✓ 言語、宗教
 - × 評価機関等では、言語の問題に関して、日本語ができる者を活用できる
 - ✓ 大きく異なる経済発展段階
 - × EU型(枠組計画)の計画実施は難しい
 - × ESFモデルはあり得るのでは
 - 不安定な政治情勢
 - ✓ 台湾、中国国内
 - ✓ 国際協力よりも国内問題が優先
 - 非政府機関主導での協力
 - ✓ 大学間
 - ✓ (公的)研究推進機関
 - 留学生拡大…受入れ体制と就職が鍵

• 参考文献

- 酒井吉栄(1979)『学問の自由・大学の自治研究』評論社。
- タイヒラー, ウルリッヒ(2003)「ヨーロッパにおける学位の相互承認と単位互換—経験と課題—」学位研究第17号、25-50頁。
- ラシュドール, ヘースティング(1966)『大学の起源(上・中・下)—ヨーロッパ中世大学史—』東洋館出版社。
- Amaral A. (2007) Higher education and quality assessment: The many rationales for quality. In Bollaert, L. et al (Eds.), *Embedding Quality Culture in Higher Education* (pp 6-10). Brussels: EUA.
- CEC = Commission of the European Communities, The role of the universities in the Europe of knowledge, Author, 2003.
- Gornitzka Å. (2007) The Lisbon Process: A Supranational Policy Perspective - Institutionalizing the Open Method of Coordination. In Maassen, P. & Olsen, J. P. (Eds.), *University Dynamics and European Integration* (pp 155-178). Dordrecht: Springer.